

天下祭

松平郷では毎年 2 月の第 2 日曜日に、松平家の始祖である松平親氏（伝 1394 年没）を讃える天下祭が行われる。親氏は、乱世に生き、天下の平和を願って祈願をしたと言われている。その願いは 8 代後の徳川家康（1543-1616）が天下を統一し、徳川幕府を開いたことで叶った。天下祭では、松平家が天下泰平に貢献したことを記念して、さまざまな清めの儀式や運氣アップのための儀式が行われる。

祭りは、前日の夜、松平東照宮の神職が、裏手にある聖なる「産湯の井戸」の水で洗った木玉を祝福することから始まる。この水は、家康をはじめとする松平家の代々の赤ちゃんの初風呂に使われたとされている。天下祭の日には、ふんどし一丁の男たちが 3 チームに分かれて松平郷を大勢で練り歩き、最終的に神社の横に設けられた会場に集合する。ここで、祭りのハイライトである「玉競り」が行われる。井戸の水で洗った福玉が運ばれてきて、参加者は運氣をもたらす玉を手に入れるために、時には体を張った勝負をする。参加者の多くは 25 歳、42 歳、61 歳で、これらの年齢は伝統的に不運とされている「厄年」だ。42 歳は最も不運な年齢とされているため、儀式の合間に玉を扱う役目を担っている。

天下祭のプログラムではまた、伝統的な舞踊や音楽のパフォーマンス、自分で餅をつく機会などがあり、飲食物や子供向けのゲームなどの屋台が出店する。